

渡り廊ッカーズの冒険

作 中島充雅

登場人物

- 1 吉田 佐々木君と同じクラス。自分の考えていることと逆のことをしてしまう。食べ物に弱い。従って、時以降の部活に耐えられない。科学部
- 2 寺島 科学部の部長。佐々木君のあつかいにいつも困っている。まじめ。にみえるがその心は純粹とはほど遠い。アニメに弱い。
- 3 東 知佳 佐々木君と同じ中学で、ずっと佐々木君を見てきた。しかし、小学校の時にひどい目にあっているので、恋愛を自分の中で禁じている。掃除がすき。
- 4 落ち武者の霊 太郎丸 相模一門の長男の霊 「姫」を探し殺す存在、ラストは逆
- 5 影武者の霊 次郎丸 相模一門の次男の霊太郎丸の影武者 「姫」を守る存在ラストは逆

1

最終稿

Scene 1 渡り廊ッカーズのため息

もとの黄昏 渡り廊下。必死になって、一カ所の汚れを三人でこすっている。

「もー」と掃除の手を休め。くたびれる吉田は、校舎に向かって叫ぶ

吉田 佐々木くん！

〜人はもくもくと掃除をしている。

吉田 佐々木くん。どこにいったの佐々木くん。行方不明の佐々木くん。いたら返事しなさい。

寺島 もうやめなよ。

吉田 だから、いるって、あたし絶対みたもん。ほんとまじ見たもん。あそこにおったんやて、佐々木君。

寺島 もついいからさあ。はやくやろうつよ。この廊下の掃除全部おわないと、遠藤に返らせなくてはならないよ。

遠藤 (遠藤の声が下の方から聞こえる)「こらあ。渡り廊下あ。やってるのかあ」

寺島 あっすいません。やっています。

遠藤 なんかさけんごったぞ。吉田が。

吉田 さけんでないです。

遠藤 ああ。吉田の声だろつが。そんなに騒いだら反省の意味ないだろ。

吉田 だって、反省したくないもーん。

最終稿

遠藤 何〜

寺島 あっはい。やります。すみません。ほらみい、おこられちゃった。

吉田 だから、それは、なんで、あたし達3人なの。

寺島 しょうがないじゃん。

吉田 ぶんぶん。

寺島 うちらその場に3人でいたんだから。

吉田 ぶんぶんぶん。

寺島 硫酸こぼしたのうちにんだからさ。

吉田 うちらじゃないし、少なくともあたしじゃないし。

寺島 いつもはあんたがこぼしてんだよ。

吉田 うん。そつだ。

寺島 だからいいじゃん。

吉田 でも硫酸をこぼしたことは、ない。

寺島 そつだ。

吉田 しかもさ、硫酸こぼしてさ、じつは。じゅわーとかいってさあ。こぼれこぼれとかいってさあ。ぐわー穴あいてさあ。

寺島 あれはたまげたね。

吉田 硫酸で、三階の床に穴をあけたことはないよ。下の会議室を大騒ぎにしたことはないよ。

寺島 あれは悲惨だったね。

吉田 校長先生がかつらって知らなかったよね。

2人 ため息。

吉田 科学部廃部かな。

寺島 廃部かな。

吉田 遠藤怒ってたね。

寺島 あの床、弁償なんじゃない。遠藤が。

東 かわいそつだね遠藤。自分が開けたわけでもない穴で、かわいそつな遠藤ごめん！

東 間。東はもう気が狂ったみたいに、モップでこしこし始める。

東 止まらないやばい雰囲気吉田と寺島はあわて羽交い締めにする。

東 もつあたしのせいですから。はなして、はなして、もつこつなったら、学校全部私、掃除しますから。

寺島 いいから、東、だれももう怒ってないから。

東 ……ほんと

吉田 ぶんぶん。

東 ごめん。ごめーん

寺島 吉田。

吉田 ぶんぶん。

東 こぼしたのうただし。もつ全部が全部あたしのせいです。

寺島 吉田

吉田 ぶんぶんぶん。

東 すいません。私のせいで。

吉田 追い詰められないで。

寺島 おまえが追い詰めただよ。

吉田 だってさあ。あたしたちこんなことしてるひまないじゃん。

寺島　まあ。

吉田　ぶんぶんぶん。

寺島　別に怒ってないけれど。

吉田　いらいらしてんの。

東　そうだね。

吉田　ごめんね。東。

東　あつ、うん。

寺島　別にいいんやて、たいした問題じゃないし。

吉田　科学部が廃部になるのはたいした問題じゃないのか。

寺島　佐々木がいなくなったことの方が問題だし。

東　・・・・・・・・

吉田　佐々木君がいなくなってから

寺島　何日

吉田　3日目。

寺島　佐々木君生きてるかな。

吉田　・・・・・・・・生きてるでしょ。

寺島　うん。

吉田　そりゃあもう余裕で。

寺島　なんで、そう思うの。

吉田　なんとなく、こつ、ばんばん生きているよきつと。

東　（ため息）

放送　全校のみなさんに連絡します。先日、3年〇組の佐々木とおる君がいなくなりまして。佐々木君がいなくなってから、はや3日目です。3日前の放課後から、消息が途

吉田　絶えました。渡り廊下のあたりで見たという生徒もいましたが、……うちらだよ。

放送　まったく信用できません。

三人　おい。

放送　生徒指導部では、みなさんの情報をおまちしています。知っている人は、生徒指導の中畑まで連絡してください。

吉田　だから、佐々木君は、この渡り廊下のイヌ走りにいたんだって、なんかこつもってさあ。ここあるいていたんだって。で、なんか、「どん」って行って、ぱっときえたって。こないだいったじゃーん。

放送　（遠藤先生の声にかわる。）・・・・・・・・渡り廊下の三人。静かにしなさいよ。

Scene 2 佐々木君がいらない

三人　はい。

放送　わかりましたか。

吉田　わかりましたあ。

放送　声が小さいですよ。

吉田　わかりましたあ。

放送　聞こえませんかよ。

三人　わかりましたあ。

放送　やかましいですよ。

三人　・・・・・・・・

放送 早く、罰掃除をすませなさい。渡り廊下のみなさん。略して、渡り廊ッカーズ
三人 はい。

三人掃除を始める。

東 また、渡り廊ッカーズだね。
寺島 そうだ。

吉田 うちらどっしていつもこうなる？

東 なぞだね。

寺島 だいたいさあ。佐々木君。どんって何。どんって

東 さあ。

掃除する三人。

寺島 ねえ、これ落ちないよ。

吉田 どれ。

東 なんか。これ、あれじゃない。

三人こすりながら。

吉田 なんかあれだよ。

寺島 何。あれって。

吉田 目じゃない。目。

寺島 えー。そうか。そうかな。

東 おちないよね。くっそおお

下校の音楽が流れる。

吉田 あっ下校の音楽だ。

放送「全校のみなさん。佐々木君が行方不明になって3日目です。従って、佐々木君が見つかるまで、放課後の部活動を禁止します。ただちにかえりなさい。

吉田 あああ、えらいことだね。もはや。

放送「全校のみなさんはすぐにかえりなさい、教室の窓を閉め。おたがいに挨拶をして、元気よくかえりましょう。」

寺島 うちら小学生か。

吉田 よし帰ろう。

三人 うん。

放送「渡り廊下の人たちは帰りましょう。」

三人 おーい。

放送帰り道で道草をしたり、自転車をカリパクしたり、モレラで万引きをしたり……
気をつけてね。」

吉田 何をだ。

放送「また、6年C組の佐々木君みたいに行方不明になったら、おうちの人に連絡しま
しょうね。」

寺島 しないよ。

東 ねって何。

下校の音楽高まって、そして、バンバンと学校の電気が消えていく。

東 ああ、電気が消えてく。

寺島 ああ、みんな先に帰って行くんだ。

東 ああ、みて、先生達、もかえっていく。

寺島 うちらどつなんるんだよ。

東 ねえみて、あれ遠藤先生じゃない。

吉田 こっちでみて手、振ってる。

東 先生、笑ってる。

寺島 ……なんで。

下校の音楽高まって、そしてフェードアウト。

気がつけば、すっかり日が暮れる。吉田はなんかもっぴをぐちゃぐちゃしながらあそん
でいる。

東 みんな帰っちゃった。

吉田 ああ、なんかこれ、ソビエトに見える。ベトナム。ソビエトに見える。

寺島 見えないって。

吉田 もう、あたまの中、ソビエトのソビエトっぽいだよ。「これ何ソビエト。ねえ。何味だと思っ。

寺島 吉田。

吉田 だからあ、佐々木君がいなくなって、みんな心配でいらいらして、だからあ東は、硫酸

こぼして、みんなで連帯責任で罰掃除して、あたしはおながすいて、だから、叫ぶの！。

佐々木君。佐々木くん。どこにいったの佐々木くん。……………かえる。かえ

ったらうごんたべるし、もう絶対。たべるし。

寺島 そうだね。

吉田 にこみうごんたべるし。

寺島 あつくない。

吉田 すうごんもたべるし。

吉田と寺島はうごん談義

東 うごんだ。

吉田 知佳もたべるか。

東 うごんなのよ。佐々木君が最後に手に持っていたのは、あれうごんだったのよ。

吉田 何が。

東 最後につちらが佐々木君をみたの。この渡り廊下のここだったじゃん。
吉田 ……もうその話はいいし。今は佐々木君よりうどんだし。
東 だから、うどんだったんだよ。

寺島 何が。

東 あの時もさあ。なんか、実験室のワックスがけ罰掃除やらされていて、吉田がもつぷみてうどんっていったじゃん。

吉田 ああ、あの、実験室のガス湯沸かし器、ぶっ壊した時の
寺島 あの時もたまげたね。

吉田 で、何

東 で、一緒に掃除していた。佐々木君。いなくなったじゃん。

吉田 そうだったけ。

東 そう。

寺島 吉田はうどんの話で夢中だったから。

吉田 ああ。

東 で、部活をぼって何やってんの。って吉田さけんじゃん。向かい側の実験室から。

吉田 ああ。そいつの話のながれね。そつね。そつだったね

東 だから、あの時、片手になにかもってて。薄暗くて、よくわかんなかったけど、きつとあれ、カツパ麺のうどん。で、吉田が何やってんだってきいたじゃん。うどんて言ったんだよ。で、「とん」だけ聞こえたんだよ。

寺島 ああ。

吉田 なんて。

東 なが。

吉田 だから、なんて。

東 あれだよ。吉田にうどん食べさせてあげようと思って。実験室のガス壊れてたから、向かいの開かずの実験室に忍び込もうとしたんだよ。吉田のために。

吉田 ……なんでうちのため。

寺島 佐々木君。吉田のこと好きって、知ってた？。

Science 3 硫酸

間 最後の残光が生える校舎の光が、三人の横顔を照らす。

吉田 ……

東 吉田

吉田 ……

東 寺島

寺島 もつぷ目だからね。

東 うん。

寺島 もつぷまかすのつらいなつてね。

東 うん。

寺島 東だつて、佐々木君と同中やん。警察の人にいる間かれたやん。もつさあ。うちら限界じゃん。ほんとはなんかしたいけどさあ。うるさい放送入るだけでさあ。学校なんにもしてくれないさあ。うちの気持ちさあ。誰も知らんしさあ。佐々木君とうちら四人でさあ、うちら科学部なのにさあ。うちら今、3人でさあ。なにやってんだろつね。……掃除……片付けるね……

東は片付け始める。吉田は手すりに手をかけ、佐々木君が行方不明になった校舎をみつめている。その後ろ姿を見て、東は吉田の気持ちがかかる。寺島が戻ってくる。東が寺島に小声で話し掛ける。

寺島 今、言ってよかったのかな。

東 あたし、なんていつていいかわからない。ごめん。あたしがなんかへんなこと言ったばかりにさあ、なんか微妙な雰囲気になっちゃって。ごめん。

寺島 うちらはさあ、佐々木君の気持ちしつとったやん。で、たぶん、吉田も知つとったと思っんやて。でも、あの子さあ、素直じゃないやん。

この寺島と東の会話中、吉田は手すりを乗り越え、校舎のイ又走りにわたっていく。非常に危なっかしい身のこなしで、なんども落ちかける。

1 3

寺島 素直に心配だとか、もつあたしだめとか言えばいいのに、なんかいらいらしてさあ。そのいらいらがうちらにも伝染するじゃん。だから、知佳も硫酸こぼすやん。

東 うん、……まあ。そうかな。

吉田 そつやん。そうなんやて、だから、こついつのはさあ、なんかぎつかけとかがあればさあ。吉田もさあ、落ち着くと思っから、吉田は、って、なにやっつてんだあ。

寺島はかなりあぶない体勢で、校舎の壁へはりついている。

間

東 吉田！

寺島 なにやっとなの！

吉田 ここだよねえ！

寺島 じゃなくて何やっとなの！

吉田 わかつたんやて！

寺島 なにがぁ。

吉田 だからわかつたの！

寺島 佐々木君の気持ちがああ！

東、寺島を殴打する。

東 いいすぎだつて。もろやん。いまのもろやん。

吉田 ちがうう！

東 あぶないで戻ってきて！

吉田 ここに、旧校舎とつながつとった入口があるやん。

東 うん！

吉田 ここあたりやん、うちら佐々木君みたの。最後に。きやあ！

東 あぶないで、いいで、こつちに来て説明して。

吉田 ……

寺島 べつしたの！

吉田 戻れない。

寺島 べつするの。

吉田 べつしてひびく……

東 うん。

吉田 お腹なった。

寺島 お腹どうでもいいから、もどつて来て！

吉田 だからさあ。ここに、入口があるやん。出入り口の、もと出入り口の、ここから、入れば、いいんじゃない。ここから入ればさあ。なんかわかるんじゃない。佐々木君ここで消えたやん。

寺島 その実験室は警察が調べたし、誰もいないし。開かずの実験室だから、だいたいから誰もいないんだよ。

吉田 佐々木君はここから消えたんやて。

寺島 だから何。

吉田 ……鍵かかどつる。鍵かかどつる。

寺島 無理やて。

東 降りれない！？

吉田 ……

寺島 先生よぼ。無理やて。

吉田 佐々木君さあ。なんで、この壁にさああの時、へばりついたの。……うちさあ、ほかになにすればいいのお。

～人 ……

吉田 ほかになにすればいいのお

東 ……(東) いったん消え。また戻ってくる。

寺島 ねえ、それちょっと。

東 いこ。

寺島 ねえ、ちょっと。それどつするの。それ、硫酸やん。

～人 も、イヌ走りをわたって、校舎の壁にへばりつく。東は硫酸をドアノブにかける。煙を上げるドアノブ。

寺島 とけすぎじゃない。これ硫酸じゃなくない。ねえ、とけすぎじゃない。

全大道具は、壁にへばりついた三人とともに大回転をする。

Scene 4 太郎丸

怪しげな雰囲気のためよう実験室。

窓のむこうにはさつきまで三人が掃除していた渡り廊下が見える。

おおさわぎしている三人の音が聞こえる

ドン。ドン。ドンーという音とともに、ドアが開き、なだれ込んでくる三人。

寺島 どつじやう。うちらはいっちゃったよ。

東 いったあ。

吉田 入れたね。入れた。

吉田、叫ぶ。

吉田 佐々木くん。どこにいったの佐々木くん。行方不明の佐々木くん。いたら返事しなさい。

しばらく、佐々木君をさがす。アドリブ。

東 うわあ、これすごいよ。人体解剖図。

吉田 あっ、うちの学校にもあったんだあ。

東 うん。

吉田 今、私のこのあたり(胃)に大きな空間がひろがってるんやて。あっ、のうみそっておいしそうだよな。

東 どんだけお腹すいてんの。

吉田 あっ、これもつごんに。

東 みえないから。

吉田 この子つごくかな。

東 つごかないから。てか子って何。

吉田 目光とか。

東 光らないから。

吉田 ですか。寺島さん。

東 どうした。

寺島 (寺島はすみで固まっている。(なんか。もつためかも。))

吉田 なが。

寺島 なんかこつこつとこつこつとくるとさあ。あたしさあ、だめなんやて。あたしさあ肩がおもくなるんやて。

吉田 (肩をもち)

寺島 たぶんだめだから、ていうか、もついるかなってか。あたしさあ、まさか。本当にここに入ることになるとか思ってなかったからさあ。ついてきちゃったけどさあ。もつものすこくかえりしたいの。みんなこの開かずの実験室の噂知ってる。

〜人 知らない。

寺島 先輩から聞いた話だったんだけどさあ。こつてさあ。もと科学部の部屋だったんだって。

〜人 えっ。

寺島 ある日さあ、科学部の部長さんが女の子だったんだけど、実験をやっていたんだって、土壌中の窒素をケルダール法で測定する実験で、土壌中の微生物の活動を特定する実験だったの。でさあ、研究を発売したのは、その時の副部長のもつ一人の女の子だったんだけど、おとなしいこだったから、部活をまとめられなかったのね。だから、発案者はその副部長の子だったんだけど、結局、部活を進めた部長の女の子がやったことになってちゃったの。

東 知ってる。うちの科学部そのの微生物の研究でこないだ全国大会いったんでしょ。

寺島 そんな話じゃないの。吉田たぶん誰も知らんと思う。あたしも遠藤にだまっとけよっていわれたから。

東 え。

寺島 ケルダール法ってさあ。硫酸つかうんやて。硫酸を希硫酸にするときさあ。普通だれだつてさあ。水にね。いっぱいある水に、濃硫酸入れて、希硫酸にするでしょ。

東 するね。逆はだめだね。

寺島 そっ。

吉田 うそお。おちわかった。それ。うそお。

東 どうしようどうしよう。
寺島 にげよにげよ。とりあえずにげよ。

三人逃げよとする。

東 ちょっと待って。

寺島 何。

東 だめだよ佐々木君ごとするの。

吉田 そつだよ。佐々木君ほつといて、いかんやん。うちらそんなだめよ。

寺島 どんだけ、勇氣あるの。おかしくない。絶対やばいやん。うちら絶対もつ絶体絶命やん。

いいつて、佐々木君一人の命とうちら三人の命とどっちが大事。3のほつがいちよりお
おきやん。もう全力ダッシュやて、うちら全力ダッシュ。

吉田 声が大きい。

太郎丸 ……声が大きい。

吉田 えつ。

太郎丸 ……えつ。

東 何。どうした。

吉田 えつ、何何々。

太郎丸 えつ、何何々。

寺島 まねしとるよ。吉田のまねしてる。

吉田 なんで、うちの事、好きなの？。なんでなんで。

太郎丸 こつちを見る。

吉田 えつ。

太郎丸 えつ。といつた奴。こつちを見る。

吉田 えつえつえつ

東 だめやて。だめやて。誘導しとるやて。

吉田 ……

東 どうした。

吉田 鏡でばれてる。

吉田、たちあがる。

太郎丸 こつちを見るお。

吉田ゆっくり振り返る。読経のつぶやきが再び聞こえてくる。太郎と目が合う。

Scene 5 次郎丸

目があった瞬間に雷鳴。動きに自由がきかない吉田。太郎丸が近づくと吉田も近づく。

東 吉田。逃げて。何ちかづいてるの。

吉田 ええええ。なんでえ。足勝手につづく。あれえ。つづく。つづくし。勝手につづくし。

東 見て、同じ動き。してる。

吉田 体が、体が、勝手に。体があああ。

太郎丸。どじょうすくい。

吉田 手が勝手にどじょうすくいしてる。

東 吉田、しっかりして。

太郎丸。頭をかく。吉田も頭をかく。

東 なんて頭かくの。

吉田 わからない。

太郎丸、指を鳴らす。吉田も指を鳴らす。

東 なんて指ならすの。

吉田 ああ、あたし指なってる。すい、でぎんかったんやて指ならして、うわしくない。

太郎丸、ひげダンスをする。吉田もひげダンスをする。

東 たのしいの吉田。

吉田 楽しくない。

東 ひどい。ひどすぎる。吉田、あんな姿になって。どうしたらいいのあたし達。ねえ、寺島。

寺島 憑衣合体よ。

東 へっ。

寺島 これ、あたしが好きなシャーマンキングなのね。

東 寺島ああああああ。

東 寺島 ということは、このモップで……オーバーソウルするかも。帰ってきて寺島。

吉田は寺島のモップを取り上げて、ぶんぶん回す。太郎丸も槍を回す。

東 吉田。

寺島 やばいにして。

吉田。モップをたたきおろす。大地が揺れる衝撃がおこる。吉田がしゃべる。それは、太郎丸と声が重なる。

東 なにこれ。地震。

寺島 吉田、どうしたの。

吉田 貴様ら、姫はしらぬか。

東 吉田、今、何。

吉田 我は、相模一門の長男。相模太郎丸。

東 太郎丸。

太・吉田 われは、太郎丸。姫を捜すものふなり。

東 姫って何。

寺島 姫ってあれじゃない。お城の姫とかなにか。

吉田 姫はおらぬかああああああ。

あたりを破壊し尽くす。寺島と太郎丸。

寺島 どうすればいいの。

東 どうしようもないよお。

寺島 なんか武器。なんか武器。

東 モップ。モップ。

吉田がモップできりかかる。寺島と東でつける。しかし、吹き飛ばされる。

太郎丸 姫はおらぬか。姫はおらぬかあああああ。

吉田があばれる。寺島と東は逃げ回る。

東 てかさあ。たたかつちやだめじゃない。ていつか。勝てるわけないけど、万が一、うちらが勝ったら、吉田どつなるの。

寺島 あっ、いかんがね。吉田が死ぬがね。

吉田 ごめんねえ。寺島、東。

寺島 えっしゃべれるの。

吉田 もっどつしよもないからさあ。適当に逃げて。

吉田は斬りつけるが、普通にしゃべる。

吉田 うちを捨てて、²人だけで逃げてよ。

寺島 そんな泣かせること言ってかんで。

東 うちら4人で渡り廊下ズヤん。

寺島 でもさあ、うちさあ、みんなを殺したくない。

吉田は斬りつける。斬りつける。

吉田 早く逃げてえ。その扉から逃げて。

吉田、扉をとおせんぼする。

吉田 早く逃げてえ。

寺島 本当にそう思ってる？。

東 言ってることと行動が伴ってないよ。

吉田 ごめん！うちらしいでしょ！ひねくれものあたらしいでしょ。

寺島 へんなところで納得しないで！

太郎丸 姫はどこだあああああああああああああああああああああ！

太郎丸に光が集まる。

太郎丸 時は戦国であった。親が子を殺し、子が親を殺し、兄弟が殺し合っ、まさに戦乱の世であった。この山野に、一つの城があった。城に姫がいた。荒野に咲くたった一輪のつばぎの花。我は、その姫を捜す物なり。邪魔だてるものは、大地鳴動この槍で、討

吉田 ち滅ぼすものなり。
討ち滅ぼす物なり。
2人 大地鳴動！

吉田、槍を振り下ろす。大地鳴動。ふっとぶ。〜人。

東 吉田。しっかりして。まけちゃだめ。

寺島 東。

吉田 ごめん、東、寺島。

東 吉田をはなしなさいよ。あたしの友達をはなしなさいよ。あたしたちは、佐々木君を探しに来ただけなの。佐々木君をどこかにやったのもあなたなの。佐々木君をかえしなさいよ。みんなみんなかえしなさいよ。あれ、いない。

吉田 うごける。

寺島 よかった。

東 にげよ。

寺島 いる！

東 えっ。

寺島 うしろ。

太郎丸 気がつけば、東の後ろに立っている。

太郎丸 こっちを見るお……こっちを見るお。

矢が放たれる音。衝撃音。太郎丸はすぐに吹き飛ばす。

三人 えっ。

太郎丸 一回。次郎丸か。一回だな。どこだ次郎丸。

東 次郎丸。

声 次郎丸。ここだ。兄じゃ。

太郎丸 こっちを見る女。早くこっちを見るお。

矢が放たれる音。衝撃音。太郎丸吹き飛ばす。

うがぁ。……一回。一回か。

次郎丸、三人の背後に忽然とあらわれる。盲目の影武者。弓をもっている。

次郎丸 目を見てはいけない。

太郎丸 こっちを見る。

次郎丸 あと一回だ。太郎丸兄じゃ。

太郎丸 こい、次郎丸。あと一回のおまえになができる。

次郎丸 次郎丸まいる。

実験室台に立ちひざで傳く次郎丸と床に立つ太郎丸が対峙。

雷鳴。

太郎丸の攻撃3回。その場に静観し、必要最低限の動きで太郎丸の攻撃を全て交わす次

郎丸

太郎丸 おおおおおおお。大地鳴動

打ち下ろす槍が次郎丸の青眼を打ち砕かんとする。弓で受ける次郎丸。が弓はしなる。

太郎丸 があああ。

次郎丸 そのの姫方。逃げよ。

三人 えつ。

次郎丸 逃げよ。もたぬ。

三人 はい。

三人は脱兎のごとく実験台の裏から飛び出し、出口にダッシュ。

太郎丸 まてえい。

太郎丸 出口にダッシュする三人に槍を振り下ろす。大地鳴動。足下がすくわれて、吹っ飛ぶ三人。背中を見せた太郎丸に次郎丸「見えない矢」をつがう。

太郎丸振り向きざまに右回転の槍でなぎ払う。実験台から転げ落ちる次郎丸。再び弓をつがう次郎丸は三人をかばうように回り込む。

次郎丸の矢をおそれる太郎丸は実験台に飛び乗り槍を構える。

太郎丸 こつちを見る。女ども。

次郎丸 見てはいけない。

寺島 見ちゃだめよ。見ちゃ。見たら取り憑かれる。

吉田 わかってる。

次郎丸は、構えを解く。

太郎丸 どうした。次郎丸

次郎丸 あと一回だ。太郎丸兄じゃ。

太郎丸 おまえの矢などこの槍で打ちふせてみせる。

次郎丸 しかし、すでに二回当たった。

太郎丸 最後の一回。とくと我にあててみせよ。貴様の矢が我をはずしたならば次郎丸。それ貴様の最後の時じゃ。

次郎丸 兄じゃ。

太郎丸 何だ。

次郎丸 われは、すでに、矢を放った。

太郎丸 何……おのれ。たばかったか。

次郎丸 電光石火。隼。

次郎丸が中天を指さす。指さした中天より矢が飛来する音がせまる。

そして、コンクリートを打ち抜くような音がひびく。

(口スコを使用して)実験台から煙が吹き出し、太郎丸をつつむ。台からたくさんの手がたくさん出てきて、太郎丸を地面の下に引き込もうとする。

太郎丸 弟のくせに、弟のくせに、おのれ次郎丸。ゆるさぬ。ゆるさぬぬぬぬ。

Scene 6 戦乱の恋

太郎丸消える。

次郎丸 大丈夫ですか。怪我はありませんか。

三人 ……

次郎丸 今、私の矢で、風穴をここにうがりました。太郎丸はこの穴から、闇に引き込まれ、しばらくは戻ってこられないようにしました。

三人 ……

次郎丸は、太郎丸がいた実験台に再び飛び乗り、なにやら探っている。

次郎丸 さあ、今のうちに逃げなさい。今度は、私が太郎丸に負けるのですから。

次郎丸、太郎丸が消えたあたりを手のひらで触り、なにかを調べている。

吉田 ねえ。今、何起こってるの。

東 ていうかあの人も何。

吉田 あたしさえ、さっき、こんなことやってなかった。こんなこと（ひげダンス）

東 やってた。

吉田 こんなことも。（どじょうすくへん）

東 やってた。

吉田 ゆび。ゆび。（当然鳴らない）

東 なってた。

寺島 あそんな場合じゃないのよ。これはあれよ。あのあそこにいる青い鎧の人が、次郎丸で、さっきまでここで吉田に乗り移っていたのが、太郎丸って名前で、2人は兄弟で、長く戦乱の世からね、この辺りをさまよっている何。あれ。その。その亡霊で。2人は因縁がなんかあって、それに姫なんかからんでいて、そうよ。これは、4百年を超えて、2人の侍と1人の姫の悲しい恋の物語なのよ。で、今は、この開かずの実験室に2人の亡霊が地縛霊になっていて、たった今、吉田に憑衣合体したのよ。すくくない。かっこよくない。もっどじょうする今日これからどじょうする。

2人 ……

寺島 あたしも憑衣合体したいとさっきから思ってるの、あの次郎丸に声をかけようと思ってんだけど、どうしたらいい。あたしさえ、男の人に声かけるの基本的になんか

東 /（殴る）

寺島 いた。なんで。

東 目を覚ましなさい。

次郎丸 おおむね正解です。

三人 えー

次郎丸 太郎丸は姫の魂を探しています。見つけ出したら最後、姫は、太郎丸に食らいつくされることでしょう。私は姫を太郎丸から護るために、太郎丸のあとを追っています。

寺島 あなたは誰なんですか。

次郎丸 私は、相模一門の次男、相模次郎丸。この地をおさめる城主相模秀明の娘、冬椿姫の行方を捜しお守りするのが私の定めです。

吉田 私、吉田といいます。さきほどは助けていただきましてありがとうございます。

次郎丸 さきほどは兄の太郎丸が無礼をはたらいたことこの弟の次郎丸がお詫ひ申し上げます。

次郎丸、深く頭を下げる。

吉田とりあえず正座してみる。後ろを振り返る。あわてて、寺島と東も来て正座する。

寺島 寺島といいます。

東 東といいます。

吉田 さきほどは

三人 ありがとうございます。

吉田 私たち、佐々木君つて男子を捜しているんですけど、知りませんか。

東 この実験室に迷い込んでできませんでしたか。

寺島 私たちの仲間なんです。私たち、佐々木君を捜してここまで来たんです。

次郎丸 ……知っています。

東 教えてください。

吉田 (東の教えてのてから重ねる) てくだ。

吉田、東の気持ちに気づく。

次郎丸 ……無理です。

三人 えっ。

次郎丸 あなたたちの望み果たすためには、太郎丸を倒さねばなりません。

三人 ……

次郎丸 太郎丸もそして私もはや魂のみの存在です。生身の体を持たなければ戦うことができ

ません。だから、太郎丸はあなたに取り憑き、戦う力を手に入れようとしたのです。太

郎丸は姫を捜し出し、その魂を食らうまで、力を欲しています。その佐々木殿も、太

郎丸にとりこにされ、戦うための生身の体として今虜にされています。

東 虜つて、あの赤いのに捕まっているってこと。

寺島 助けられないの。

次郎丸 太郎丸を倒せば。

寺島 倒し方は

次郎丸 それは。

吉田 佐々木君さあ、3日間もさあ、こはんどつしとるかなあ。お風呂入ってないんじゃない。

どうする。すごいかわいそうじゃない。

東 あの、生きていますか。

次郎丸 はい。

寺島 あの、戦う力つて、じゃあ、あなたがさつき戦っていたのは何なんですか。

次郎丸 あれは隼といいます。今は故あつて説明できませんが、ある方法をつかうと力の強い矢

を3本手に入れることができますが、しかし今はもうありません。今の私が戦うな

ら、やはり私も誰かに取り憑いて太郎丸と戦うしか、方法がありません。

寺島 憑衣合体！

東 (殴る)

寺島 なんて。

吉田 取り憑くつて、次郎丸さんが私たちの誰かに取り憑くんですか。

次郎丸 私の代わりにこの弓で、太郎丸の心の臓を貫けば勝ちです。

吉田 もついやあ。取り憑かれるのつてすごく気持ち悪いんだよ。

寺島 だから、私に憑衣合体。
2人 おい！

どどん。と実験室がゆれる。

三人 きゃあああ。

次郎丸 どうやら、戻ってきたようです。どうしますか。今逃げれば、まだ間に合います。

東 あたしに取り憑いてください。

吉田 東。だめだよ。うちがやんなきゃだめだよ。

東 だって、いやなんですよ。

吉田 いやだけど。やるよう。

東 だめだよ。もとはといえば、あたしが会議室に硫酸こぼしたから、こんなことになったんだから。

吉田 東はどうして、硫酸こぼしたの。

東 ……それは。

吉田 東は佐々木君のことどう思ってるの。おな中ですよ。ずっと佐々木君のこと見てたんですよ。

東 見てたよ。

吉田 佐々木君は、私にうどん食べさせようとして、こんなことになっちゃったの。

東 ……

吉田 あたしにやらせて。…あたしにやらせて。

寺島 で、目を見ればいいんですね。

2人 おい！

次郎丸 私の場合、目が見えませんが、あなたの肩に手を置きます。それで取り憑きます。あなは私の弓が使えるようになります。

寺島 憑衣合体。

次郎丸 今なんと。

寺島 憑衣合体っていつってください。そうすると、気分です。

次郎丸 気分ですか。

東 何要望してるんだ。

寺島次郎丸 せーの憑衣合体

雷鳴。そして轟音。太郎丸、降臨。寺島と次郎丸は実験台つらへ

寺島次郎丸 目をつぶれ2人。

目をつぶる2人、太郎丸、実験室に入ってくる。寺島達は実験室の裏にかくれる。

太郎丸 こっちを見ろ……こっちを見ろ……

次郎丸 私と寺島殿が太郎丸を倒すまで、2人は決して目を開けてはいけない。

東 はい。

吉田 はい。

次郎丸 私は目が見えない。しかし、この部屋の空気流れ、兄しゃの息づかいをさぐり、兄しゃの場所を探る。もつすぐだ。もつすぐわかる。

太郎丸 こっちを見ろ。

次郎丸 絶対目を見てはいけない。もつすぐもつすぐ兄しゃの場所がわかる。

寺島 うつていいですか。

次郎丸 もつすこし引き寄せます。絶対一撃で奴の心の臓を。さもなければ、反撃されて、あなたの命が危ない。太郎丸は強い。私のこの目はどうしてみえないかわかりますか。太郎丸にえぐりとられたのです。この右手も太郎丸につぶされたのです。奴の強さ、覚悟してください。

寺島 はい、すでに後悔しています。

次郎丸 きます。絶対に奴の目を見ないこと。

太郎丸 こつちを見る……こつちを見る……こつちを見るとおれは、権姫をお守りする立場にありながら、この胸恋いこがれる気持ちは抑えることができなかつた。こつちを見る。その黒い髪をゆらして、その細い首をかたむけて、この恋いこがれる気持ちに狂つ、我のほうを見ると、姫よ我の方を見ると、切に、切に、願つた。しかし、時は戦国、全ての恋いも愛も希望も未来も、この地面に血の滴りとなって消えていく……姫はどこだ。わが姫はどこだああ……こつちを見る……こつちを見る……

3 7

太郎丸消える。

寺島 消えた。気配が消えたよ。

次郎丸 違います。

声 遠藤 おーい。渡り廊下ズ。こんなところでなにやってんだ。早く出てこい。

東 えつ。先生だ。

吉田 先生が助けに来たんだ。

次郎丸 目を開けるな！

三人 えつ。

次郎丸 太郎丸は、君たちの目をあけさせるために、あらゆる言葉をかけてくる。君たちの知り合いに化けて、話しかけ、なんとか、目を開けさせようとする。

声 遠藤 おい、どこにいるんだ。はやく出てこい。

吉田 そんな。あれ。まちがいに遠藤じゃない。

次郎丸 太郎丸は強い。だまされてはいけない。

吉田 はい。あれ。なんか。いいにおいしない。いいにおい。

吉田、ふらふらと歩き出す。気がつく、お盆にのった鍋焼きうどんがお箸と一緒におかれている。

吉田 これ、このなべの形。あつ。このにおい。これは。

吉田、目をつぶりながら、上手から下手へ、四つんばいで大移動する。そして、鍋焼きうどんにたどり着く。

3 8

次郎丸 いけない。太郎丸は何にでも化けることができる。目を開けてはいけない。

吉田 なべやきうどんだあ。

東 吉田だめ。だめだよ吉田。

吉田 あれ、こつち。東。

東 そつ、こつち来て。こつちよ。

吉田

東 うん。

吉田 あたしあたまの中、うどんていつぱい

東 吉田あああああああ。
吉田 いただきます！

吉田、目を開ける。鍋焼きうどんのふたを開ける。
雷鳴。
鍋からは煙(ドライアイス)が吹き出す。吉田、なべやきうどんをもちあげ、ふらふらと立ち上がる。窓のそばまで歩く。窓の向こうから太郎丸立ち上がる。太郎丸は鍋をもつ。

太郎丸 こつちを見ろおおおおおお

雷鳴。全舞台大転換。モップを持った吉田と次郎丸に肩をおかれた寺島の戦闘が始まり、舞台は再び渡り廊下へ。

Scene 7 渡り廊下の戦闘

そこは夜の渡り廊下の舞台設定が完成する。

完成するまでの間に、次郎丸の矢はつきる。追いつめる太郎丸と追いつめられる次郎丸

吉田 逃げて。逃げて逃げて逃げて！寺島！

次郎丸 だめだ。兄じゃはつよすぎる。

太郎丸 んあああああ、とどめだあああああ。

吉田は、寺島の弓をたたき落とし、寺島を打ち据える。次郎丸消える。

次郎丸 おのれ兄じゃあ。

寺島 吉田。

吉田 寺島。逃げてえ！

この戦闘のあいだに、来たとおりに戻ってきた東が間に入り、吉田の槍にふしゃぶりつく。

東 やめる吉田。やめるよ。

吉田 やめたいよお、あたしもやめたいよお。たすけて東。東。

東 あたしを見て。あたしを見て！

やりを押さえる東と吉田の視線がびたりとあつ。うごきがとまる二人。雷鳴。

東 あたしを見て！

太郎丸 何！

東 こんどは私に取り憑きなさいよ。

吉田 東あ、何するつもり。

東 太郎丸があたしに取り憑いた瞬間に、この渡り廊下から飛び降りてやる。

吉田 ……(こわれた手すり見る)だめだよお。

太郎丸 姫……

次郎丸、狂ったように笑つ。

次郎丸 姫の気配は感じていた。姫を殺すことが悲願の我が魂は、しかし、あいにく、探し出すためのまなこをもたぬ。太郎丸兄じゃが見つげ出すまで待つしかほかはなかった。

太郎丸 姫は我が太郎丸が護る。

次郎丸 しかし、あと一回だな。太郎丸兄じゃ。隼をあといつかいくらえば、兄じゃは地獄へ消える。

太郎丸 もう矢はあるまい。

次郎丸 何、いまからつくるぞ。

太郎丸 何。

次郎丸 こつちを見る。

太郎丸 いかん、目を閉じる。

次郎丸 こつちを見る。

次郎丸の右拳が開く。握られていたのは次郎丸の眼球。

吉田と寺島は目の光りに賣かれて硬直する。

次郎丸 この俺の右手を見る、己でくりぬいたこの目。絶望と嫉妬に狂った俺が、俺から城を

奪い、姫を奪った兄じゃを呪ったこの俺が。目に映る全ての呪ったこの俺が、自らくりぬいたこのまなこ。この目を見た者は全て、我の矢となって兄じゃをつらぬけええ。

東 吉田。寺島……吉田。寺島。

次郎丸は、2人に近づき、「見えない矢」を吉田から3本、寺島から3本引き抜く。引

き抜かれた2人は気を失って倒れる。

東 しっかりと、しっかりと、寺島、吉田。

太郎丸 太郎丸、まいる。

次郎丸 無駄だ。

次郎丸、悠然と弓を放つ。目を射抜かれる太郎丸。

太郎丸 があ。

次郎丸 これで終わりだ兄じゃ。姫の命は次郎丸がもらいうける。

太郎丸 だまれ、おとうとの分際で。

次郎丸 もうたつてもいられまい。隼を三回くらえば、どんな悪霊もこの世から消える。

太郎丸 われは悪霊でない！

次郎丸 そうか。ならもう一回。

さらにもう一つの目を射抜かれる太郎丸は校舎の壁の中に消える。

東と次郎丸。

東 ……太郎丸はどうなっちゃったの。

次郎丸 消えた。もつもどらぬ。

東 寺島は吉田は。

次郎丸 我に気を奪われて隼となった、よみがえることかかなわぬ。

東 佐々木君もそうしたの。

次郎丸 そつだ。

東 ……ここで、あなたを倒したらどうなるの。みんな戻ってくるの

次郎丸 かなわぬ。我を倒すことができるのは太郎丸のみ。

東 あなたさあ、なんなの。

次郎丸 姫を殺すよう定められたこの弓にやどりし次郎丸の魂。

東 そつなんだ。弓なんだ。

次郎丸 姫、さがしましたぞ。見えぬ眼でも、この距離ならはずしませぬ。

次郎丸、隼をつがえる。

東、ポケットに入れてあった。びんをなげる。あたる。溶ける音。

次郎丸 何！

東 鉄の弓でも溶けるよね。

次郎丸 がああああ。がああああああああ。

次郎丸、消える。東、2人に駆け寄る。

東 寺島、吉田。しっかりして。おきてー！どつして、やっつけたんじゃないの。ねえ。寺島。

声 太郎丸 まだ、終わってません。

東 えっ……太郎丸。

声 太郎丸 姫、次郎丸は、すぐ戻って参ります。お逃げ下さい。

東 ……

声 太郎丸 太郎はもう目が見えませんが、姫の姿が見えませんが。

東 あたししに取り憑いて太郎丸。次郎丸と戦って。

声 太郎丸 見えませぬ。姫の姿が見えませぬ。

東 聞いてよ太郎丸。あたし、ずっと佐々木君をみてきたの。それから、佐々木君のことが好きで吉田も見ていたの。そして佐々木君の気持ちに気づいている吉田と、私の事気遣いながら、いつも4人の雰囲気や大事にしようとする努力してた寺島を見てた。今の4人でいるんなら実験して、本当にいっぱい失敗して、ほんとにいろんな失敗して。化学実験で大爆発したり、空気ロケット実験で視聴覚室めちゃくちゃにしたり、花のいっぱい運動で花の種いっぱい風船でとばして、その種、遺伝子換え種子わかって、みんなで青森まで風船回収に行ったり、ほんとにいっぱい失敗して。いつも4人で罰掃除で、この渡り廊下で、いつも4人で、みんなから渡り廊下カーズいわれて、でも、そんなみんなをみていて、あたしはいつも幸せだったんだよ。硫酸は鉄の扉を溶かすことができても、鉄の弓を溶かすことはできても、あたしのこの心はいつまでも溶けないんだよ。いつまでもいつまでも、あたしはここでみんなを見つめていて、佐々木君への気持ちでくすぶっていたんだよ。ねえ、太郎丸、負けてくやしくないの、あたし、あなたの気持ちわかるよ。私も本当は、佐々木君にこついたかったんだよ。こつちを見て、あたしを見て！あたしを見て！

渡り廊下の手すりの向こうに目をつぶされた太郎丸が現れる

東 太郎丸……

太郎丸は、東にモップをなげる。モップが東のまえで乾いた音を立てて転がる。太郎丸はすぐに消える

声 太郎丸 この棒きれに化けました。
東 モップ。
声 太郎丸 一回だけですよ。

次郎丸あらわれる。

次郎丸 なにさらしてくれるんじゃないやああああ。このまま、兄じゃの魂とともに三人とも討ち滅ぼしてくれる。

次郎丸 弓をつがえる。そして一斉に3本の「見えない矢」を放つ。
中天を指す次郎丸。

次郎丸 電光石火。隼ああああああああああああ。

矢が中天より迫る音高鳴る。モップを回転させて気を練る東。構えが決まる。

東 太郎丸がいる。

東前に進み出る。東、槍で虚空を一閃。矢の衝撃波が沈黙する。

東 大地鳴動。隼返し。
次郎丸 兄じゃああああああ。

次郎丸が東の後ろから近づく。東のモップの突きは虚空を迸り、そのまま次郎丸を貫く。

次郎丸 がは。
東 紫電一閃

雷鳴。雷光が次郎丸をつつむ。
オーバーソウル解除。東倒れる。吉田と寺島は目が覚める。
そして、すべては元に戻る。空には星が静かに瞬いている。

Scene 8 そして渡り廊下ズ

吉田 ねえ、もしかして、また、寝た。うちら。
寺島 うわーまじか。

吉田、寺島、また寝る

吉田 いつものパターンだ。
寺島 渡り廊下ズはいつもおそくまで掃除して、最後、寝ちゃったよね。
吉田 ああああ、もうおなかすいた。おなかすいた。かえろかえろ。
寺島 おおおい、東。起きて、東あ。
吉田 東おきんね。

寺島 いつものパターンだね。

吉田 佐々木君のことで、一番悩んでるよね。この子が

寺島 なんて、他人ごと。

吉田 私は、まあ、どうでもいいので。

寺島 そうなの。

吉田 ……そうなの。

寺島 ……佐々木君。生きてるかな。

吉田 そういうこといわんといいて。

東 ……うん。ああああ。(東ががばっと起きる)

寺島 いつもパターンだ。

吉田 いつも一番一所懸命掃除する東が一番最後に起きて、あああああっていうんだよね。

東 いや、なんかすんごい夢みたんやて。もう、なんかすんごいやつ。

吉田 そうなんやて、うちもみたんやて、もう今回はすんごいや。

東 どんない夢だった。

吉田 えっとねえ、侍が出てきてね。

寺島 あっ、あたしも。

吉田 侍がうちの体にとりつくんやて。

寺島 えっ。うちも同じ夢だよ。

東 ねえ、でどうなった。あたしさあ、佐々木君がもどってこれるように、夢のなかで一生懸命がんばったんだけどさあ。次郎丸を倒せばさあ、みんなみんなもとに戻ると思ってたんだけどさあ。がんばったんだけどさあ。ねえ、これ全部夢だったの。全部夢だったの。ねえ。がんば

寺島 東。泣くな。

吉田 ねえ、行こつよ。

吉田 ねえ、行こつよ。

寺島 やめやあ。吉田。

吉田 佐々木くん。そんなところで何やってんのー。

寺島 えっ。

東 へっ。

吉田 ー何、聞こえない。何。いままでどこにいったのー。何。

寺島 佐々木君だ。

東 えっえっえっ。

吉田 ン。わかった。今、そっち行くわ。みんな心配してたんだよ。

吉田、行こつよ。

吉田 東泣く。寺島。東をだきしめる。吉田。あることに気づき。立ち上がる。

吉田 佐々木くん。行方不明の佐々木くん。

東号泣する。

吉田 佐々木くん。

東さびに号泣。

寺島 ……ねえ、何。佐々木君。

吉田 なんかわからんけど、冷蔵庫の中で、冷凍睡眠実験をなんとか、かんとか、はあ。

寺島 ほら、なんか、コールドスリープの実験したとかいって、寺島反対したジャン。したねえ。てかするねえ。

吉田 あたしも誘われたんだけど、ことわったの。でもまさか1人でやるとは思わなかったな。……死ねばいい。そのまま永遠に起きなければいい。

寺島 東。

東 ぶんぶん太郎丸のモップを振り回す。

東 太郎丸。まいる。

東 全力ダッシュで、本館に消える。

寺島 ちよっとお。

寺島と吉田も追いかける。追いかけながら「太郎丸って、あたしの夢にもでた」「あたしも」「とかいっている。

静寂の中、さきほどの渡り廊下に描かれた「すっつても落ちない目が光る。不気味に光る。